

変異する
ダーウィニズム
進化論と社会

阪上 孝 [編]

京都大学人文科学研究所研究報告

目次

はしがき i

ダーウイニズムと人文・社会科学

阪上孝 3

- 一 ダーウイニズムと人文・社会科学——その二つの局面 3
- 二 第一局面におけるダーウイニズム 10
- 三 累積的变化の理論——ソーステイン・ヴェブレン 17
- 四 「文化進化論」 27

I 概念と論争

ダーウインを消した女——クレマンンス・ロワイエと仏訳『種の起原』

北垣徹 46

- 一 知の拡がりの諸様態 46
- 二 『種の起原』の進化と変異 50
- 三 翻訳のダイナミズムとポリテイクス 55
- 四 フェミニズムとレイシズムのあいだ 62
- 五 一元論的唯物論 74
- 六 ダーウインの威光 81

カプセルのなかの科学——スペンサー・ハヴァイスマン論争

小林 博行

89

一 舞台と発端 92

二 争点——三つのレベル 99

三 基本的対立 114

四 余波と副産物 116

「変質」と「解体」——精神医学と進化論

大東 祥孝

127

一 変質論と進化論 129

二 「解体」学説と進化論 137

三 「変質」と「解体」の精神医学における進化論的意義 148

四 ダーウィニズムと精神医学 151

親族研究における進化概念の受容——進化から変容へ

田中 雅一

159

一 進化から歴史へ 160

二 類別的名称とは？——ドラヴィダ型親族名称体系 165

三 「人類の血族と姻族の諸体系」の初稿 170

四 進化主義の導入 173

五 『古代社会』における家族と親族 176

六 モーガン以後の親族研究——レヴィ・ストロースとニードム 179

七 進化を決定する要因——スリランカの漁村から 183

Ⅱ 進化論から見た社会

闘争する社会——ルドヴィク・ゲンプロヴィチの社会学体系

小山 哲 192

- 一 「ファシズムへの予備工作」？ 192
 - 二 ポーランド・ポジテイヴィズムと進化論の受容 194
 - 三 グンプロヴィチのプロフィール 203
 - 四 グンプロヴィチの社会学体系——進化論との関連を中心に 208
 - 五 「ポーランドの土壤」から生まれたもの 224
- ### 『動物社会』と進化論——アルフレッド・エスピナスをめぐって

白鳥 義彦 237

- 一 エスピナスの位置づけ 237
 - 二 エスピナスの経歴 241
 - 三 『動物社会』について 244
 - 四 社会学への道 247
 - 五 動物社会への視点 258
- ### 加藤弘之の進化学事始

武田 時昌 265

- 一 近代日本における進化論の啓蒙活動 265
- 二 バックル文明史観からダーウィン進化論へ 270
- 三 人口論とダーウィン説 279
- 四 人種論における進化説 285
- 五 ドイツ進化学主義者の影響 290

六 加藤弘之の進化論理解 295

七 『日本之開化』の進化学 302

八 社会ダーウィニズムへの傾斜 305

九 科学知識としての進化論 311

群体としての社会——丘浅次郎における「社会」の発見をめぐる 上野 成利 318

一 丘浅次郎と「社会」の発見 318

二 生存競争と適者生存——生物の進化 325

三 団体生活と服従精神——人類の滅亡 331

四 自然淘汰と人種改良——社会の進化 337

五 生存競争と相互扶助——生物の階級 343

六 有機体国家から群体社会へ 349

個体としての生物、個体としての社会

——石川千代松における進化と人間社会 齋藤 光 360

一 石川千代松の位置 363

二 石川の進化思想を測る二つの水準点 369

三 『進化新論』におけるダーウィンの構図と個体論的構成 380

四 進化と社会 395

Ⅲ 人種と優生学

人口とその徴候——優生学批判のために

宇城 輝人

410

一 統計 413

二 写真 426

三 優生学の視点 441

アメリカ人類学にみる進化論と人種

竹沢 泰子

452

一 『種の起原』以前のアメリカ人類学——モートンとアメリカ人類学派 454

二 ダーウィンと人類学 459

三 進化論とアメリカ人類学者——プリントン、パウエル、クロツソン 464

四 シカゴ世界大博覧会と人種の展示——パットナム 471

五 人類学にとっての進化論 481

人種主義と優生学——進化の科学と人間の「改造」(アメリカの場合)

小林 清一

490

一 心理学の展開と遺伝の科学 492

二 移民問題と人種主義 498

三 遺伝の科学と優生学 504

四 優生運動——断種と移民制限 513

五 優生運動の転換と遺伝の科学 520

IV ダーウィニズムの現在

「ダーウィン革命」とは何であったか

横山 輝雄

534

- 一 コペルニクス革命とダーウィン革命 535
- 二 ダーウィン革命についての二つの解釈 539
- 三 ダーウィン革命と世界観の問題 544
- 四 ダーウィン革命と歴史性の問題 549
- 五 ダーウィン革命と目的論の問題 551

必然としての「進化の操作」

——現代社会における人と自然の行方を考える

加藤 和人

559

- 一 現代における進化の科学と思想 560
- 二 実験生物学と「進化の操作」の可能性 566
- 三 生態系の変化——すでに操作されている自然 579
- 四 人と自然の見方について——「文化としての自然」を考える 581

進化経済学の現在

八木 紀一郎

588

- 一 進化的な科学革命の遅延 588
- 二 再生した進化経済学——諸潮流 592
- 三 出現しつつあるコア構造 600
- 四 岐路か統合か——進化経済学の現在の課題 610

ダーウィニズムの展開	
人名索引(逆頁)	640
執筆者一覧	652
関連年表	
	631

変異するダーウィニズム——進化論と社会

Darwin's Effects

I 概念と論争

Darwin's Effects

Ⅱ 進化論から見た社会

Darwin's Effects

Ⅲ 人種と優生学

Darwin's Effects

IV ダーウィニズムの現在

●執筆者一覧

さかがみ 阪上	たかし 孝	中部大学中部高等学術研究所／社会思想史
きたがき 北垣	とおる 徹	西南学院大学文学部／知識社会学・社会思想史
こばやし 小林	ひろゆき 博行	京都大学人文科学研究所／科学史
おおひがし 大東	よしたか 祥孝	京都大学留学生センター／精神医学
たなか 田中	まさかず 雅一	京都大学人文科学研究所／文化人類学
こやま 小山	さとし 哲	京都大学大学院文学研究科／西洋史
しらとり 白鳥	よしひこ 義彦	神戸大学文学部／社会学
たけだ 武田	ときまさ 時昌	京都大学人文科学研究所／中国科学思想史
うえの 上野	なりとし 成利	神戸大学国際文化学部／政治・社会思想史
さいとう 斎藤	ひかる 光	京都精華大学人文学部／科学史
うしろ 宇城	てるひと 輝人	福井県立大学学術教養センター／社会学・社会思想史
たけざわ 竹沢	やすこ 泰子	京都大学人文科学研究所／人種・エスニシティ論
こばやし 小林	きよかず 清一	滋賀県立大学人間文化学部／社会政策・社会思想史
よこやま 横山	てるお 輝雄	南山大学人文学部／科学哲学・科学技術論
かとう 加藤	かずと 和人	京都大学人文科学研究所／現代生命科学論
やぎ 八木	きいちろう 紀一郎	京都大学大学院経済学研究科／経済学・経済学史

(掲載順)

編者略歴

阪上 孝（さかがみ たかし）

中部大学中部高等学術研究所教授・京都大学名誉教授

一九三九年 神戸市生まれ。

一九六六年 京都大学大学院経済学研究科修士課程修了。

一九六六年 京都大学人文科学研究所助手。

一九七三年 大阪市立大学経済学部講師。

一九七六年 京都大学人文科学研究所助教授。

一九八八年 京都大学人文科学研究所教授。

二〇〇三年より現職。

主な著書

『フランス社会主義』（新評論、一九八一年）

『一八四八 国家装置と民衆』（編著、ミネルヴァ書房、

一九八五年）

『人文学のアナトミー』（共編著、岩波書店、一九九五年）

『近代的統治の誕生』（岩波書店、一九九九年）

変異するダーウイニズム——進化論と社会

二〇〇三年十一月一日 初版第一刷発行

編者 阪上孝
発行者 阪上孝

発行所 京都大学学術出版会

606 8305 京都市左京区吉田河原町一五・九京大倉館内

電話 〇七五七六一六一八二

FAX 〇七五七六一六一九〇

URL <http://www.kyoto-u.ac.jp/>

印刷・製本／亜細亜印刷

©Takashi Sakagami et al. 2003. Printed in Japan.

ISBN4-87698-621-5

定価はカバーに表示してあります